

お年寄り慰問 公演2000回

江戸川・あすなろ会

83歳座長「体力続く限り継続」

江戸川区を拠点に高齢者施設を慰問する芸能ボランティア団体「あすなろ会 左真紀一座」が9月21日、2000回の節目となる記念公演を行った。活動開始から57年がたち、メンバーの平均年齢は83歳。座長の「左真紀」こと塚本邦昭さん(83)は、「皆さんの笑顔と拍手が生きがい。体力が続く限り継続していきたい」と話している。(江原桂都)



記念公演を終えた塚本さん(左から5人目)ら出演者たち(9月21日、江戸川区で)

「この写真の男性は、いったい誰でしょうか？」
21日午後、同区大杉の高齢者施設「アゼリーアネットワークス」。帽子を横向きにかぶり、法被姿の塚本さんは、約50人の入所者に質問を投げかけた。高倉健、原節子、石原裕次郎など、往年の映画スターを当てるクイズは人気の演目だ。
最後に示された写真は、塚本さん自身の30歳の時のお見合い写真。「いい男でしたよ」と塚本さんがした

り顔で問いかけると、会場が笑いに包まれ、拍手がおこった。同施設の福原聡一郎施設長(58)は「入所者の皆さんに、非日常の楽しみを提供してくれて感謝している」と話す。

一座は1967年3月に前身となる団体が設立された。台東区出身で、高齢者を励ますボランティアを25歳から続けてきた塚本さんが、89年から座長となった。

現在のメンバーは首都圏を中心に、76〜87歳の13人。年間50回ほど、江戸川区を中心に首都圏の高齢者施設を回り、マジックやダンス、歌やギター演奏などで入所者らを元気づけている。「お年寄りの皆さんに笑顔になってもらいたい」。その一心でボランティアを続けてきた。

同じ施設への訪問は年に1度と決めている。頻繁に訪れると新鮮味が失われてしまうからだ。毎年訪れる常連の施設では、顔なじみの人を見かけなくなるなど悲しい別れもあった。それでも塚本さんは「施設の職員さんから『普段笑わないのに楽しそうでした』と言われると、本当に来て良かったと思える」と話す。

無事に目標だった2000回公演を達成した塚本さんは「あっという間だった。健康と仲間に恵まれて続けてこられた」と振り返り、「今後の目標は特に立せず、自分とメンバーの体が丈夫な限り続けていきたい」と笑顔で話していた。